

ペナンにおける環境政策及び開発

第7回アジア・太平洋エコビジネスフォーラム

日本、川崎市

2011年2月14日



概要

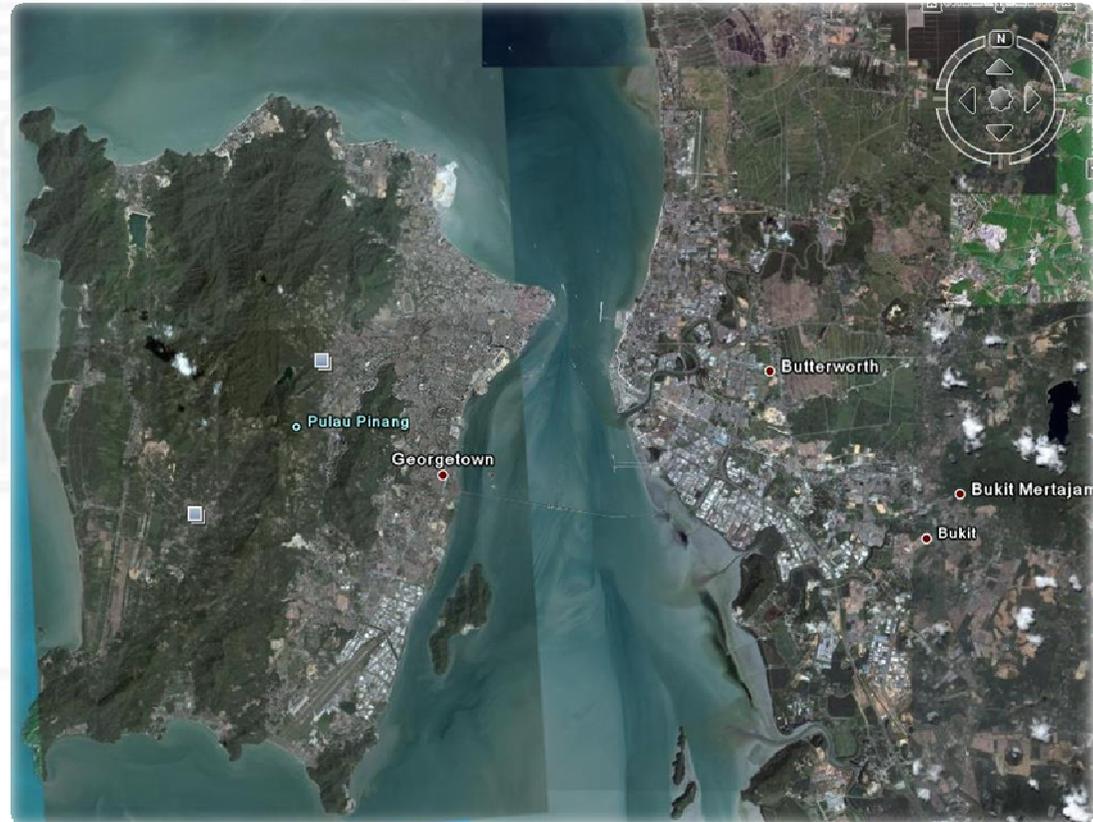
- マレーシア、ペナン
- ペナンの環境政策
- ペナン環境保全戦略 (1999年)
- パラダイム・シフト
- ペナン・ブループリント (2011年 – 2015年)
- ペナン・緑の州
- 公的プログラム
- クリーナー・グリーナー・ペナン
- ペナン・エコタウン
- 結論



マレーシア、ペナン

- ペナン島は、東インド会社のフランス・ライト提督によって1786年に築られました。
- ペナン本土 (ウェルズリー州)は1790年に占領され、海峡植民地 (Straits Settlements) の施政下で統合されました。
- 港町であるジョージタウンは、貿易、商業及び文化の拠点として発展しました。

- 国: マレーシア
- 座標: 北緯5度24分東経100度14分
- 面積: 1,048 km²
- 人口: 150万(2010年時点)
- GDP: 495億マレーシア・リングgit (2010年時点)
- 人間開発指数: 0.773
- 都市化率: 80%





ペナンの様々な面



マレーシア、ペナン

- マレーシアの貿易港として始まりました。ペナンは、1969年まで自由貿易港としての地位を保っていました。
- 1970年に、ペナンの経済開発を促進するために、バヤン・レパス自由産業地区が設けられました。
- バヤン・レパス自由産業地区とは別に、ペナンのその他の地域も産業地区として開発され、Juru、Bukit Minyak 及びMak Mandinなどの地域が含まれています。
- 製造業は、経済の最大の構成要素で、50.6%を占めています。次いで、サービス産業が続き、経済の45.8%を占めています。
- 2010年に、ペナンは、122億RM（マレーシア・リングgit）相当の投資を呼び込みましたが、これは マレーシアの全投資額の26%を占めています。



マレーシア、ペナン

- 観光開発は、経済を支える2番目に大きい力になっています。ペナンで開発された一つのニッチ部門がエコツーリズムであり、以下のような場所を特徴としています。
 - ペナン植物園：マレーシアで最古の公営の植物園(1884年)
 - ペナン・ヒル：地域で最古の丘のリゾート (1796年)
 - ペナン国立公園：世界で最小の国立公園
 - バトウ・フェリンギ・ビーチ：1970年からのビーチ・リゾート通り



ペナンの環境政策

- ペナンは、1991年以降、持続可能な開発に関する政策を採用しました。
- 「ペナン戦略開発計画 1」(1991年- 2000年) - 環境及び天然資源管理を経済計画に組み込みました。
- 「ペナン戦略開発計画 2」(2001年 – 2010年) – 持続可能な開発への移行に関する戦略を提案しました。
- 1999年 – 「ペナン環境保全戦略」がペナン州政府によって採用されました。



ペナン環境保全戦略 (1999年)

- ここ数十年間の開発に対するペナンの環境への懸念に対処するため
- 「ペナン環境保全戦略」において特定された問題
 - 環境汚染
 - 交通渋滞
 - ごみ処理及び管理
 - 丘の斜面の開発及び土壌浸食
 - 鉄砲水
 - 公共緑地の欠如
 - 自然生態系の退化
 - 環境衛生の劣悪さ: 大気 & 水資源
 - 将来の天然資源の搾取



ペナン環境保全戦略 (1999)

- 以下の点に基づく問題点に対処するために、一連の戦略、及びそれに関連する望ましい政策介入や実施期間の詳細が導き出されました。
 - 人口
 - 土地の利用及び修復
 - 淡水資源
 - 海洋及び沿岸資源
 - 生物の多様性
 - 持続可能な観光開発
 - 住みやすさを重視した開発
 - 産業関連の環境管理
- 問題点に対処するための戦略において、支援政策、制度的メカニズム、実施機関、実施の期間及びニーズ評価が提案、実施されました。



パラダイム・シフト

- 環境保護から持続可能な開発へのシフト
- 生態学的又は環境的な持続可能性は、経済面及び社会面における持続可能性の基礎になっています。
- 採用される戦略の変更は以下の観点に基づいています。
 - 環境を保護し、開発の影響を減らすこと
 - 環境計画を通じて生活の質を向上させること
 - 将来を持続可能に – 適応戦略は将来の環境面での脅威及び持続可能な未来への移行を形成する。



ペナン・ブループリント

2011年 – 2015年

- より持続可能なペナンへの移行に重点が置かれています。
- 以前に概要がまとめられた問題点は再検討され、戦略は優先度に基づいて再整理されました。
- 移行に関する新アジェンダには、以下の事項が含まれています。
 - 持続可能性を評価する道具としてエコロジカル・フットプリントを利用
 - 世界的な気候の変動 – 地域社会からの反応
 - 天然資源の枯渇 – 資源の有効利用
 - 持続可能性に基づく開発
 - グリーン成長、グリーン・ビジネス、グリーン製造
 - 生態系及び生物多様性の喪失に対する対処
- 「ペナン・ブループリント」は、今後5年間の新たな開発に関する指針として用いられます。



ペナン・緑の州

- ペナンをマレーシア初の緑の州 (green state) に変えようとする州政府の構想
- 以下を通して、ペナンの人々が社会に貢献し、緑に対するペナンの取り組みに関する認識を高めるようにすることに力を注いでいます。
 - グリーン・スクール賞
 - アクア・セーブ賞
 - グリーン・ジャーナリズム賞
 - ペナン環境賞
 - レジ袋の無料配布の中止日 (3日から1週間まで)
 - 緑のシティズンシップ
 - 「クリーナー・グリーナー・ペナン」イニシアティブ
 - エコタウン



公的プログラム

- 「クリーナー・グリーナー・ペナン (Cleaner Greener Penang)」イニシアティブ – ペナンに環境改善をもたらすためのキャンペーンとして2010年に開始されました。
- 州政府から地域社会、NGO、メディア、市民まで多様な関係者が参加しています。
- 以下を通して、環境の変化に対して生活の質を向上させることをその目的としています。
 - 近隣地域をよりきれいにし、緑を増やすこと
 - 3R (ごみの発生抑制、再使用、再生利用) を通して廃棄物を最小限に減らすこと
 - 責任のある市民へと意識を変えること



クリーナー・グリーナー・ペナン

- 「クリーナー・グリーナー・ペナン」の活動には、以下の取り組みがあります。
 - 様々な地区や地域社会に「環境資源センター」を設置すること
 - 公共緑地をみんなできれいにすること
 - 市街地の再設計に関するイニシアティブ
 - 街並みの緑化



クリーナー・グリーナー・ペナン・プログラム



ペナン・エコタウン

- 2008年に国連環境計画-国際環境技術センター（UNEP-ITEC）によって開始された連携をフォローアップしています。
- 州政府と地元自治体が主要関係者です。
- 「ペナン・グリーン・アジェンダ（Penang Green Agenda）」の「触媒」としての役割を果たしています。－プログラム区域において、プログラムが実施されています。
- 産業関係者が多数参加しています。
- また、ペナンを環境対応のグリーン製造拠点として開発する構想も含まれています。



ペナン・エコタウン

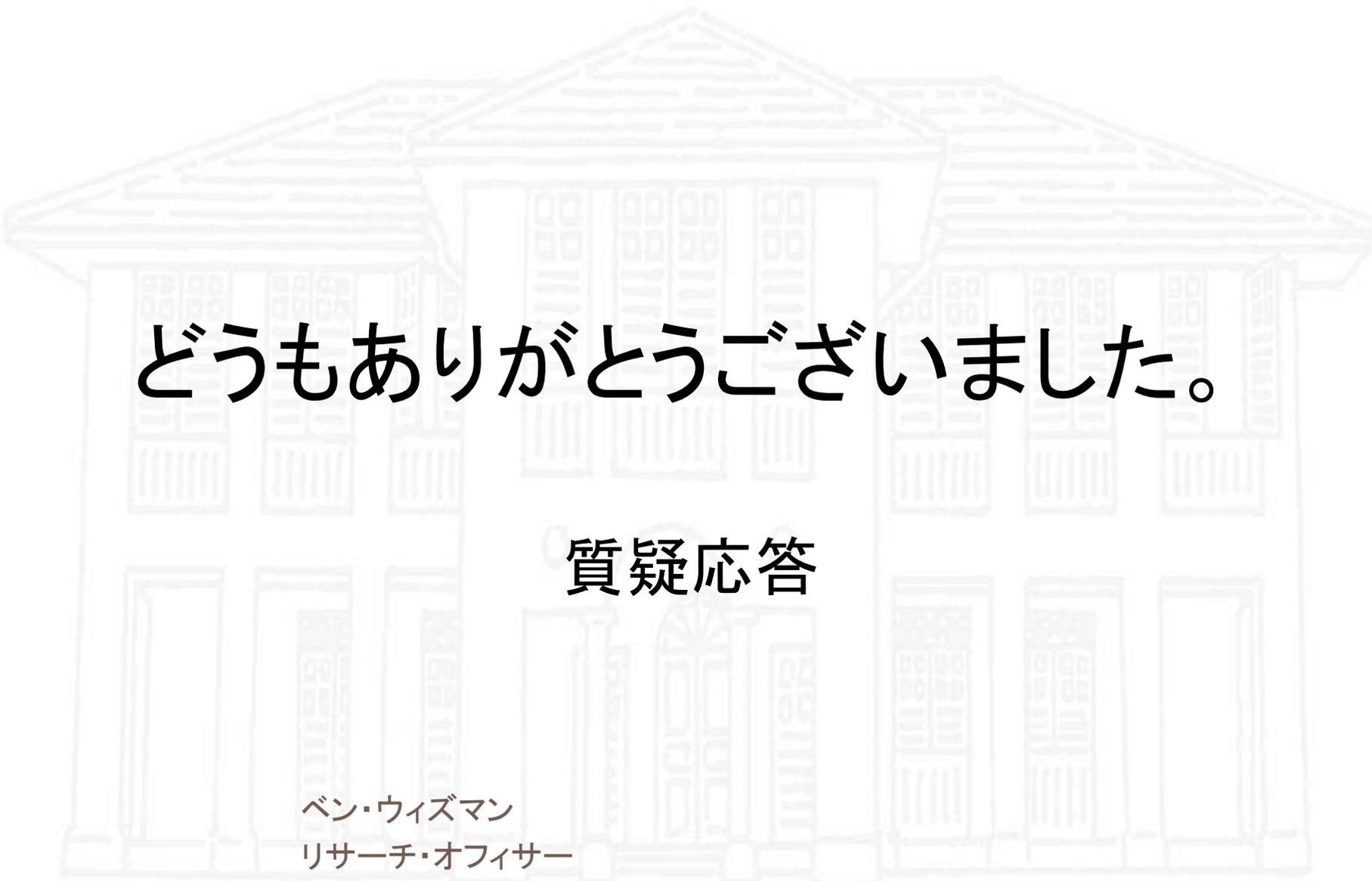
- エコタウンの研究や推進はまた、2つの別のプロジェクトを進展させました。
 - エコ村:ペナン・ヒルの上にある、小さなコミュニティを備えた、有名な観光地
 - エコ都市:緑地の開発:持続可能な都市計画を、新しい開発に組み入れるため
- その他の類似のプロジェクト
 - エコ・ツー・シティ:世界銀行の構想で、ジョージタウン地域を経済と環境を両立した持続可能な都市に変えることを目指しています。



結論

- ペナンにおいては、環境面での重要性や持続可能性を認識するような意識の変化が育ってきています。
- そうした変化は、特に州政府の政策変更やプログラムにおいて顕著にみられます。
- 市民はこれを受け入れ、同じような関心が国内全体に広がりました。
- 真の意味で生態学的に持続可能な州になるまでの道のりは未だに長いものの、構想を支え続けるための取り組みがなされています。





どうもありがとうございました。

質疑応答

ベン・ウィズマン
リサーチ・オフィサー
2010年2月14日

